

晩秋の候 宮崎県防衛協会 青年部会 宮崎支部会員諸兄に於かれましては、益々ご清福の段 大慶至極に存じ上げます。

皆様には日頃より当支部運営に際して特段のご高配を賜り、深甚なる敬意を表すと共に、倍旧のご支援を伏してお願ひ申し上げる次第です。

毎年春秋は自衛隊関連行事が重なり先月も例外ではなく、計六回県内外のイベントに参加させて頂きましたが、皆様には時系列的にご案内致します。

十月四日は新田原基地にて今月一日開催の「防協青第十三回宮崎大会」実行委員会があり、各支部から参加者や協賛広告の途中集計が報告されました。

当支部を始め県内各支部長等の尽力で参加人員や特に協賛広告等の目標は大きく達成され、先ずは資金的には余裕のある大会運営が出来そうです。

大会終了後に改めて決算報告をさせて頂きますが、この場をお借り致しまして、大会参加や協賛広告にご協力頂いた支部会員にお礼を申し上げます。

同六日は健軍駐屯地での第五十八回西方総監創隊記念式典に、当支部より三名参加して西方麾下の精鋭部隊による車両観閲行進を見学し、八月に上番した「番匠総監」の力強いスピーチを大変心地よく拝聴させて頂いた処です。

同九日は県内六番目の串間支部発足記念式典に二名で参加し、串間支部の仲間達と楽しく交流をさせて頂きましたが、これは翌日の宮日新聞に大きく掲載されましたので、ご覧頂いた会員もおられる事かと存じます。

同二十日、靖国神社秋季例大祭に初めて参列したところ、一千名を越える方々が風雨をついて参集し、阿南惟正氏が一番先に昇殿参拝をされました。

あの有名な「一死以テ大罪ヲ謝シ奉ル 昭和二十年八月十四日夜 陸軍大臣 阿南惟幾 神州不滅ヲ確信シツツ」の遺書を認めて昭和二十年八月十五日早朝、割腹自決した、終戦時の陸軍大臣・阿南惟幾大将のご子息です。

宮城事件に一部参画し、また阿南大臣の自決の直前に部屋を訪ねた、岩田正孝(旧姓井田)陸軍元中佐は、その時の模様をこう語っています。最後に「お目にかかった時、既に死の準備をされていましたが、今、おれは死のうと思いが、おまえはどう思うか」といきなり問われるのです。即座に「結構です」と答えると、大臣は喜ばれましてね。ところが「私も閣下のあとを参ります」と言ったら怒られました。私の頬を両手でバンバンと叩き「死ぬのはおれ一人がいい。みんな死なずに国家再建のために尽くしてくれ」と。そう

言って私がハイというまで、いつまでも私を抱きしめられました。その後阿南惟幾陸軍大臣は、介錯を拒み苦しめるだけ苦しみ、十五日七時十分に絶命したそうです。全てのご英霊に哀悼の誠を捧げねばなりません。

そして同二十七日は朝霞訓練場に於いて三年に一度挙行される「観閲式」の一行進を観閲台の真後ろから、誠に頼もしく参観させて頂いた次第です。観閲官である安倍総理の訓辞は当夜のTVニュースでも放映されたので、お聞きになられたかと存じますが、「自衛隊は存在することで抑止力になる、と言った従来の発想を切り替えなければならぬ」と明言されました。

さて十一月一日は「全国防衛協会連合会青年部会第十三回青年研修会宮崎大会」と「九州・沖縄地区防衛協会青年部会連絡協議会第三十一回宮崎大会」が新田原や日向灘、そしてシーガイアを会場に開催されますので、皆様には来月号の中でその詳細や顛末をお知らせする予定です。

結びに、祖国の彌栄と皆様のご健勝を衷心より、ご祈念申し上げます。

平成二十五年十一月一日

宮崎県防衛協会青年部会 宮崎支部 支部長 小倉和彦

